

	ページ
アイサワ工業(株).....	39
青木あすなる建設(株).....	39
あおみ建設(株).....	39, 80
(株)浅沼組.....	39
(株)新井組.....	39
(株)安藤・間.....	39, 47
岩田地崎建設(株).....	39
梅林建設(株).....	39
(株)大林組.....	3, 39, 53
(株)大本組.....	39
(株)奥村組.....	39, 48, 49, 53
鹿島建設(株).....	39, 53
株木建設(株).....	39
(株)クボタ.....	39
(株)熊谷組.....	39, 53
(株)鴻池組.....	39, 73
五洋建設(株).....	39
佐藤工業(株).....	25, 30, 39
三幸建設工業(株).....	39
清水建設(株).....	39, 53
大成建設(株).....	39, 49, 50, 52, 53
大日本土木(株).....	39
大豊建設(株).....	39
(株)竹中土木.....	9, 39
TSUCHIYA(株).....	39
鉄建建設(株).....	39, 50, 52
東急建設(株).....	33, 39, 50, 52
東洋建設(株).....	39, 48
戸田建設(株).....	39
飛鳥建設(株).....	39
西松建設(株).....	39, 53, 79
日東河川工業(株).....	39
日特建設(株).....	39
日本基礎技術(株).....	39
日本国土開発(株).....	39
(株)ピーエス三菱.....	39
(株)フジタ.....	39, 53
(株)北陽.....	39
(株)本間組.....	39
前田建設工業(株).....	39
松尾建設(株).....	39
三井住友建設(株).....	21, 39
みらい建設工業(株).....	39
りんかい日産建設(株).....	39
若築建設(株).....	39, 76

土地改良

第322号

令和5年7月15日 発行

編集者／発行所

一般社団法人 土地改良建設協会

〒105-0004 東京都港区新橋5丁目34-4

農業土木会館

TEL 03-3434-5961

FAX 03-3434-1006

http://www.dokaikyo.or.jp/

インタビュー及び取材記事等は編集を加えており、文責は当協会にあります。また、農林水産省職員の投稿文の内容や意見は、執筆者個人に属し、同省の公式見解を示すものではありません。

デザイン・印刷 株式会社ひとみ

本誌からの許可無き転載・複製を禁じます。



座談会「行政と業界の新たなパートナーシップを考える」に感銘を受けています

真のパートナーシップを目指してスタートし9年目となる農政局との意見交換会は、着実に成果を上げており、今では工事の発注・受注の関係を越え連携して数段階上の地域、社会貢献を志すまでに進化していることに感動しています。語られている様々な創意工夫は、どこでも参考になる有意義なものばかりです。特に、会員による「食料・エネルギーの地産国消」の取組は、「みどり戦略」の具現化にも強力な応援団となるので事例発表が楽しみです。働き方改革を通じて産と官のウィンウィンの体制を築き、双方の職員が誇りとやりがいを感じて仕事に励めるよう願っています。

埼玉県 70代男性

池内教授の提案に賛同

池内教授が提案される社会的割引率の見直しに賛同します。4%の割引率では、長い目で見た事業が出来なくなり、必要な社会資本整備が進みません。省庁の枠を超えた議論の開始を期待します。ストックマネジメントのような管理事業に割引率を適用することにも矛盾があります。マンションの長期修繕事業のように割引率の適用の対象外とすることについても議論していただきたいと思います。

東京都 70代男性 マンション管理士

「日本は食料危機にどう備えるか」を読んで

「水田農業はコモング」との捉え方は経済学者・宇沢弘文(1928~2014年)の唱えた市場原理に曝してはならない社会的共通資本の重要性の指摘と同様であり多に共感出来る。また、宇沢は効率重視の過度な市場競争は、格差を拡大させ社会を不安定にすると警鐘を鳴らした。

ウクライナ紛争勃発で食料安保論がようやく本格化しているが、目前の課題の克服に留まることなく、数千年に渡る日本における農業の意義・重要性を思い起こして貰いたい。

富山県 70代男性

「今に生きる柳田國男農政論」

柳田國男と言えば、本県では佐々木喜善とともに「遠野物語」!“民話のふるさと 遠野”を全国区に押し上げてくれた大恩人である。民俗学の先達が100年以上前に農政や土地改良について語り、それが現代にも通じるという事実には驚きつつ、改めて農政や土地改良の現状、将来について考える好機になった。規模拡大の推進は如何に、農産物貿易のあり方は如何に、水田の汎用化や農地の有効活用と作物選択の自由度拡大はどこまで進められるか、さらには土地改良投資のあり方……など、柳田は100年後を生きる我々に大きな課題を投げかけているように感じた。とともに、柳田のさすがの慧眼ぶりに改めて刮目させられた。また、分かりやすく解説して下さる元杉さんの博覧強記ぶりにも改めて敬意を表したい。

岩手県 60代男性 団体職員

本誌「土地改良」へのご意見、ご感想をお待ちしております。

官製はがき又はメールにて、本号の記事の中で面白かったもの、興味深かったものを5点以内で順に表題名をお書きいただくとともに、ご意見、ご感想を200字程度でおまとめ下さい。また、住所、氏名、性別、年齢、職業、勤務先、電話番号をお書き下さい(掲載の際には、都道府県名、性別、年齢、職業までを表記させていただきます。また、文意を変えない範囲で、当方の判断で文章の量を調整させていただきます)。

ご感想等を掲載させていただいた方には、毎回もれなく全国各地の名品を贈らせていただきます。次回掲載分については、「熊本県産馬刺しセット」をご用意しております。

[8月末日締切]

〒105-0004 港区新橋5-34-4

土地改良建設協会「くろすおーばー」係

メールアドレス jigyo@dokaikyo.or.jp

